

和歌山病院での実習を終えて



萩原 佳菜

今回、大学の第三内科のポリクリの一環として一泊二日で、和歌山病院で実習させていただくことができ、多くのことを経験させていただきました。

まず、2日間にわたり院長と副院長のセミナーを受けさせていただきました。結核についてのセミナーでは副院長が一から私たちに詳しく説明してくださり、今まで習ったことを再確認する良い機会となりました。X線の読み方についての院長のセミナーでは、私達がX線を苦手とする理由からはじまり、それに基づいてX線の性質や特徴を理論づけて丁寧に説明していただき、私たちが二年後に受ける国家試験だけでなく、これから医者として仕事をする上で必ず役に立つ知識を得ることができ、はじめて聞いたときには目から鱗が落ちる思いがして、とても有意義な時間となりました。

また結核のセミナーのあとには結核病棟を見学させていただきました。その病棟内では入り口が2重になっていたり、空気の流れや圧がうまく調節され、またN95マスクも各病室に置いたり、結核患者からの感染を防ぐ様々な工夫がなされていました。管理は一般病棟よりは厳重に管理されていたのですが、周囲の環境から完全に遮断されているというわけではなく、私が抱いていて隔離病棟というイメージはなくなりました。

そして初日の夜には院長先生がごはんに連れて行ってくださり、その日初めて会ったにも関わらず私たちにとってもフレンドリーに接してくださり、医療に関する真面目な話だけではなく、過去に実習で回ってきた同級生や先輩の話をしたり、御坊市の歴史についての話を聞かせてくださったりしてとても楽しい時間を過ごすことができたと同時に、院長先生の懐の深さにも密かに感心していました。

一泊二日という短い時間でしたが、お世話になった和歌山病院院長の南方先生を初め、スタッフの方々に感謝申し上げます。この貴重な体験が無駄にならないよう、これから日々良い医者を目指して勉学に励みたいと思います。本当に有難うございました。